

# 新利根川と朝日



(表紙写真撮影：河内町 石山正光氏)

その昔、関東平野は、合流や分流を繰り返し、西へ東へと乱流する原始河川が流れ、無数に点在する大小様々な川や沼が入り組んだ土地でした。

江戸時代に「利根川の東遷<sup>とうせん</sup>」と呼ばれる大規模な改修工事が行われたことで、川の流れが安定。さらに、旧河道を用排水路として活用したことで、各地に水田が広がり、現在のような穀倉地帯が形成されていきました。

しかし、江戸時代以降は、大雨の度に洪水に見舞われることとなります。その度に、改修工事が行われたほか、近年では水門の新設、スーパー堤防の整備など、総合的な治水対策が展開されていきました。

関東平野のほぼ真ん中、利根川に接する河内町も、長年、川と共存してきた歴史があります。町の総面積の約62%が田んぼであり、その比率は茨城県内で最も高く、また、肥沃な土地は、絶品のお米を生み出し、町の魅力の1つとして知られるようになりました。

町の北西部を流れる新利根川は、人工河川ですが、水深が浅く、大雨の度に被害を受けていました。改良工事を訴えてきた住民の願いが届いたのは、大正11年(1922)。その後、度重なる水害や第二次世界大戦を経て、昭和40年(1965)、待望の治水事業が完成しました。

新年を祝い、家族や友人と日本酒を飲み交わす正月、利根川沿いの豊かな土地の恵みと、新たな年を迎えられたことに感謝したいと思います。



◆場 所：茨城県稲敷郡河内町源清田1183  
(河内町役場)

◆アクセス：  
【車】圏央道「稲敷IC」より、国道408号線で約20分  
【電車】JR常磐線「龍ヶ崎市駅」下車後、関東鉄道電ヶ崎線に乗り換え「電ヶ崎駅」下車、バス・タクシーで約20分